

2019年（令和元年） 6月28日（金曜日）

毎週（金）14:00発行

発行所 （一財）日本エネルギー経済研究所
石油情報センター電話 (03) 3534-7411 (代)
FAX (03) 3534-7422〒104-8581 東京都中央区勝どき1-13-1イヌビル・カドキ11階
ホームページ <https://oil-info.leej.or.jp>

■ 概況

6/13~6/19のNYMEX・WTIは、51.93~53.90ドルの範囲で推移した。

6月20日は、イラン革命防衛隊がホルムズ海峡近くで米国の無人偵察機を撃墜、トランプ大統領は「イランは大きな過ちを犯した」とツイートし、イランをめぐる緊張が高まったため、大幅に反発。今年最大の上げ幅を記録した。7月限終値は前日比2.89ドル高の56.65ドル。

週末21日は、トランプ大統領が無人偵察機撃墜の報復としてイラン攻撃を準備したが攻撃10分前に中止を命令したとツイートし、引き続き、ホルムズ海峡をめぐる緊張の高まりから、続伸した。また、OPEC総会と非OPEC主要産油国との合同会議の日程が7月1日と2日に確定したことも好感された。なお、ペーカー・ヒューズ社発表の米国稼動リグは789基の前週比1基増だった。この日から中心限月となった8月限終値は前日比0.36ドル高の57.43ドル。

週明け24日は、利食い売りが先行したが、トランプ大統領がイランに対する追加制裁の発動方針を発表、イランをめぐる緊張が一段と高まり、3営業日続伸した。OPECプラスの協調減産の延長観測も、下支えた。8月限終値は前週末比0.47ドル高の57.90ドル。

25日は、米国・イランをめぐる緊張の上げ要因と米中貿易摩擦の懸念の下げ要因のみ合いの中、小幅に反落した。米国は、イラン最高指導者ハメネイ師を追加制裁の対象に指定した。8月限終値は前日比0.07ドル安の57.83ドル。

26日はEIA在庫週報で、原油が前週比1,280万バレル減と市場予想を大きく上回る2週連続の取り崩し、また、ガソリンと中間留分も市場予想に反する取り崩しとなったことから、供給過剰感が後退、大幅に反発した。8月限の終値は前日比1.55ドル高の59.38ドル。

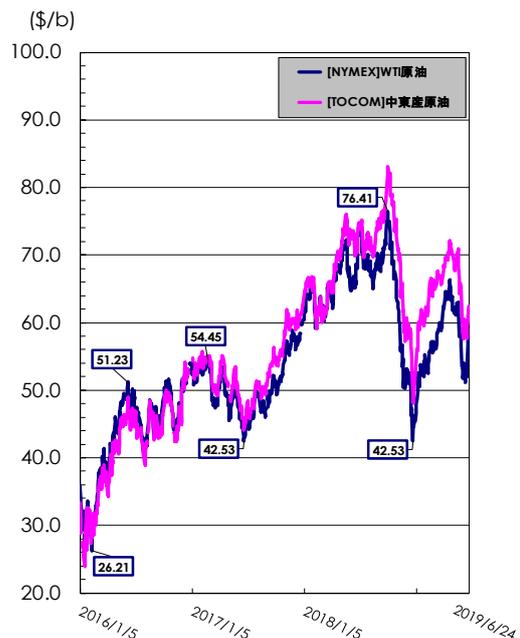
アジアの指標原油である中東産バイ原油/東京市場(8月渡し)は6月13日~19日の間59.50~61.50ドルの範囲で推移した。6月20日62.60ドル、21日63.50ドル、24日64.90ドル、25日63.60ドル、26日64.80ドルで推移した。

為替は6月13日~19日の間108.43~108.66円の範囲で推移した。6月20日107.79円、21日107.40円、24日107.42円、25日107.28円、26日107.34円で推移した。

財務省が6月27日に発表した貿易統計(速報・旬間)によると、6月上旬の原油輸入平均CIF価格は、50,981円/klで、前旬比45円安、ドル建ては73.71ドルで前旬比0.12ドル安。為替レートは1ドル/109.96円だった。

そのような中で、6月24日時点の小売価格は、ガソリンが前週比1.1円の値下がり、軽油も同1.0円の値下がり、灯油は同6円の値下がり(18%ベース)だった。ガソリンと軽油は6週連続の値下がり、灯油は4週連続の値下がりだった。この週(6月第4週)の原油コストは値上がりしたが、次週の元売の卸価格はガソリン・軽油・灯油ともに、0.5円と1.0円の値上げに分かれた。

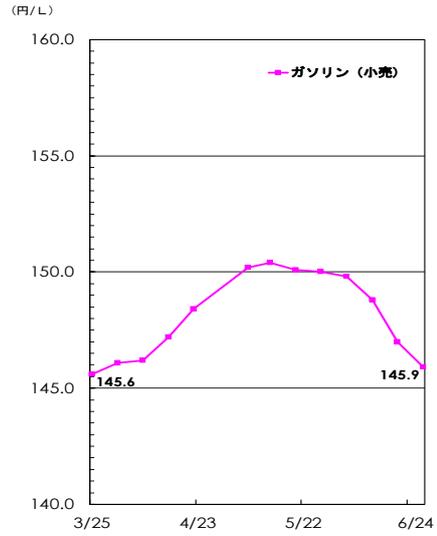
原油		今週	前週比	前年比
需給	原油処理量 (千kl)	6/16 ~ 6/22	3,251 ▲26	▲ -
	トッパー稼働率 (%)	"	83.0 ▲0.6	▲ -
	原油在庫量 (千kl)	6/22	12,676 ▼-856	▼ -
価格	中東産原油(TOCOM) (\$/bbl)	6/24	62.42 ▲3.27	▼-8.0
	WTI原油(NYMEX) (\$/bbl)	6/24	57.90 ▲5.97	▼-10.2
	原油CIF単価 (\$/bbl)	6月上旬	73.71 ▼-0.12	▲2.95
	①原油CIF単価 (¥/kl)	"	50,981 ▼-45	▲2,420
	②ドル換算レート (¥/\$)	"	109.96 ▼-0.08	▼-0.86
	外国為替TTSレート (¥/\$)	6/24	108.42 ▲1.24	▲2.27



(単位: 千kl、円/%)

ガソリン		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/16 ~ 6/22	890 ▲ 22	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	920 ▲ 55	▼ -	
	輸出	"	52 ▲ 52	▲ -	
	在庫	6/22	1,466 ▼ -81	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/18 ~ 6/24	56.8 ▲ 0.6	▼ -10.6	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/18 ~ 6/24	53.9 ▲ 0.8	▼ -8.5
		(TOCOM/中部)	6/24	56.3 ▲ 1.3	▼ -6.7
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/24	145.9 ▼ -1.1	▼ -6.0	

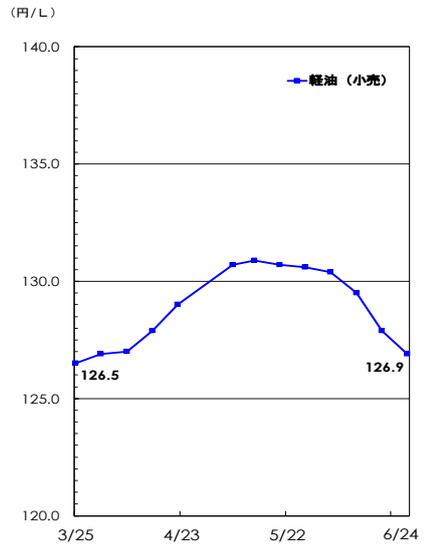
※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

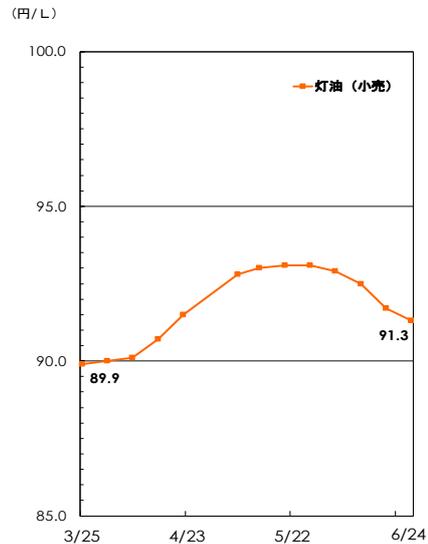
軽油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/16 ~ 6/22	741 ▼ -35	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	614 ➡ 0	▼ -	
	輸出	"	188 ▲ 41	▲ -	
	在庫	6/22	1,338 ▼ -61	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/18 ~ 6/24	59.9 ▼ -0.4	▼ -8.8	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/18 ~ 6/24	61.2 ▼ -0.7	▼ -6.1
		(TOCOM/中部)	6/24	-	-
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/24	126.9 ▼ -1.0	▼ -3.4	

※業転、先物価格は税抜き価格



(単位: 千kl、円/%)

灯油		今週	前週比	前年比	
需給	生産	6/16 ~ 6/22	158 ▲ 41	▲ -	
	輸入	"	n.a.	n.a.	
	出荷	"	139 ▲ 52	▲ -	
	輸出	"	6 ➡ 0	▲ -	
	在庫	6/22	1,489 ▲ 14	▼ -	
価格	業転 [陸上ローリー 4地区平均] (RIM)	6/18 ~ 6/24	58.6 ▼ -0.1	▼ -9.1	
	先物 [期近物/終値]	(TOCOM/東京湾)	6/18 ~ 6/24	55.6 ▲ 0.3	▼ -10.2
		(TOCOM/中部)	6/24	57.5 ▲ 0.5	▼ -8.5
	小売 [週動向] (資工庁公表)	6/24	91.3 ▼ -0.4	▼ -1.4	



■ 関連情報

1 海外/原油

6月26日のNYMEX市場WTI原油は、米国エネルギー情報局(EIA)の在庫週報で、原油が前週比1,280万バレル減と市場予想(250万バレル減)を大きく上回る2週連続の取り崩し、また、ガソリンも同100万バレル減、中間留分も同240万バレル減と市場予想に反する取り崩しとなったことから、供給過剰感が後退、大幅に反発した。また、ムニューシン米財務長官のG20大阪サミットでの米中首脳会議への楽観的発言も買いを支援することとなった。8月限の終値は前日比1.55ドル高の59.38ドル、9月限の終値は前日比1.54ドル高の59.43ドル。

EIAによると、6月24日時点のガソリンの小売価格は、前週比1.6セント値下がりの1ガロン2.654ドル(75.9円/ℓ)、ディーゼルは同2.7セント値下がりの3.043ドル(87.1円/ℓ)となった。ガソリンは7週連続の値下がり、ディーゼルは5週連続の値下がりだった。

2 国内/製品需給 (1) 出荷

石連週報によれば、2019年6月16日～6月22日に休止したトッパー能力は44.4万バレル/日で、前週に対して10.9万バレル/日増加した(全処理能力は351.9万バレル/日)。原油処理量は325.1万klと、前週に比べ2.6万kl増加。前年に対しては49.0万klの増加。トッパー稼働率は83.0%と前週に対して0.6ポイントの増加、前年に対しては12.5ポイントの増加となった。

生産は前週に比べてガソリン、灯油、C重油が増産となり、その他の油種で減産となった。

ガソリン/2.6%増、ジェット/3.7%減、灯油/34.4%増、軽油/4.5%減、A重油/2.8%減、C重油/62.1%増。今週のC重油の輸入は0.0万kl(前週比10.0万kl減)。軽油の輸出は18.8万kl(前週比4.1万kl増)。

出荷(輸入分を除く)は、前週比ではガソリン、灯油、C重油が増加となり、その他の油種で減少となった。前年比ではジェット、灯油が増加となり、その他の油種で減少となった。

ガソリンの出荷は92.0万 kl(対前週6.4%増)と2週連続で増加となり、25週連続で100万klを下回った。ジェット12.9万kl(対前週27.2%減)、灯油13.9万kl(対前週59.9%増)、軽油61.4万kl(対前週0.0%減)、A重油17.0万kl(対前週6.2%

減)、C重油20.5万kl(対前週29.0%増)。

(単位:千KL)

	今週 (6/16 ~ 6/22)	前週 (6/9 ~ 6/15)	前週比	
ガソリン	920	865	▲ 55	(6%)
ジェット燃料	129	177	▼ -48	(-27%)
灯油	139	87	▲ 52	(60%)
軽油	614	614	▶ 0	(0%)
A重油	170	181	▼ -11	(-6%)
C重油	205	159	▲ 46	(29%)
合計	2,177	2,083	▲ 94	(5%)

※今週出荷量 = (前週末在庫 + 今週生産 + 今週輸入) - (今週輸出 + 今週末在庫)

2 国内/製品需給 (2) 在庫

6月22日時点の在庫は、ジェット、灯油で積み増しとなり、その他の油種で取り崩しとなった。前年に対しては全ての油種で取り崩しとなった。

ガソリンは146.6万kl、前週差8.1万kl減。前年に対しては20.9万kl少ない。

灯油は148.9万kl、前週差1.4万kl増。前年に対しては3.3万kl少ない。

軽油は133.8万kl、前週差6.1万kl減。前年に対しては15.7万kl少ない。

A重油は69.0万kl、前週差4.3万kl減。前年に対しては6.3万kl少ない。

C重油は192.5万kl、前週差2.5万kl減。前年に対しては20.7万kl少ない。

(単位:千KL)

	今週 (6/22)	前週 (6/15)	前週比	
ガソリン	1,466	1,547	▼ -81	(-5%)
ジェット燃料	934	886	▲ 48	(5%)
灯油	1,489	1,475	▲ 14	(1%)
軽油	1,338	1,399	▼ -61	(-4%)
A重油	690	733	▼ -43	(-6%)
C重油	1,925	1,950	▼ -25	(-1%)
合計	7,842	7,990	▼ -148	(-1.9%)

3 国内/製品卸売価格 (1) 元売会社 仕切価格改定動向

6月18日～24日の原油価格は、前週比で上がりし、為替レートの円高がこれをやや相殺したが、原油コストは値上がりしたものと見られる。

陸上スポット価格は、6月18日～24日の間、ガソリン109～111円台で大きく値上がり、軽油59円台で横ばい、灯油58～59円台で大きく値上がりして推移した。

海上スポット価格は、同期間で、ガソリン110～112円台で大きく値上がり、軽油64円台で横ばい、灯油52～53円台で大きく値上がりして推移した。

先物価格は、同期間で、ガソリン106～109円台で激しく値上がり、軽油61円台で値下がり、灯油54～57円台で激しく値上がりして推移した。

次週の元売の卸価格は、ガソリン・灯油・軽油ともに、0.5円と1.0円の引き上げに分かれた。

3 国内/製品卸売価格 (2) 業転価格・先物価格動向

6月18日～24日の製品スポット市況は、6月11日～17日平均と比べ、ガソリンは全取引で値上がり、軽油は全取引で値下がり、灯油は取引により分かれるなど、割れた。

7月第1週(6/27～7/3)適用の元売卸価格に影響を与える直近の陸上スポット価格(6/18～6/24千葉、川崎、中京、阪神の4地区の陸上ラック価格平均値)は、前週比で、ガソリンは0.6円の値上がり、灯油は0.1円の値下がり、軽油は0.4円の値下がりだった。

東京湾渡しの海上スポット平均価格は、前週比で、ガソリンは0.2円の値上がり、灯油は横ばい、軽油は0.1円の値下がりだった。

先物価格は、前週比で、ガソリンが0.8円の値上がり、灯油は0.3円の値上がり、軽油は0.7円の値下がりだった。

7月第1週の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、0.5円と1.0円の値上げに分かれた。なお、元売会社は、2010年から卸価格の改定に際して、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断する方式としたが、2014年6月から、原油調達コストをより重視する方式に変更した。

(RIM) (単位: 円/%)

[陸上ローリー4地区平均]	今週 (6/18～6/24)	前週 (6/11～6/17)	前週比
レギュラー	56.8	56.2	▲0.6
灯油	58.6	58.7	▼-0.1
軽油	59.9	60.3	▼-0.4

(TOCOM) (単位: 円/%)

[期近物/終値] [平均]	今週 (6/18～6/24)	前週 (6/11～6/17)	前週比
レギュラー	53.9	53.1	▲0.8
灯油	55.6	55.3	▲0.3
軽油	61.2	61.9	▼-0.7

※上記価格は税抜き価格

参考値 (6/18～6/24実績値) (単位: 円/%)

油種	現物	先物	平均
ガソリン	▲0.6	▲0.8	▲0.7
灯油	▼-0.1	▲0.3	▲0.1
軽油	▼-0.4	▼-0.7	▼-0.5
A重油	▼-0.6		

(出所) 現物: RIM社陸上ローリー4地区平均価格

(千葉・川崎・中京・阪神)

先物: TOCOM京浜地区海上バージ渡し平均価格

4 国内/製品小売価格

6月24日時点のSS店頭価格は、ガソリンが前週比1.1円安の145.9円、軽油も同1.0円安の126.9円、灯油は18%ベースで同6円安の1,644円(1%ベースでは同0.4円安の91.3円)だった。ガソリンと軽油は6週連続の値下がり、灯油は4週連続の値下がりだった。都道府県別には、値上がりは1県、横ばいがなし、値下がり46都道府県だった。全国最安値は140.1円の宮城県(前週比1.4円安)と埼玉県(同1.6円安)、その次は石川県の141.2円(同1.5円安)、最高値は長崎県の158.3円(同0.2円安)であった。値上がりは0.1円高の熊本県(148.3円)の1県、横ばいはなし、最も値下がりしたのは3.0円安の滋賀県(143.7円)だった。

先週の原油コストはわずかに値上がりしたが、今週適用の大手元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに、0.5円ともに全社据え置いた。

今週も、原油価格は値上がりし、為替レートの円高がこれをやや相殺したが、原油コストは値上がりした。次週適用の元売の卸価格は、ガソリン・軽油・灯油ともに0.5円と1.0円の引き上げに分かれた。次週(7月1日)のガソリン・灯油の小売価格は小幅な値上がり予想される。

(単位: 円/%)

(資工庁公表) [週動向]	今週 (6/24)	前週 (6/17)	前週比	直近高値
レギュラー	145.9	147.0	▼-1.1	08/8/4 185.1
灯油	91.3	91.7	▼-0.4	08/8/11 132.1
軽油	126.9	127.9	▼-1.0	08/8/4 167.4

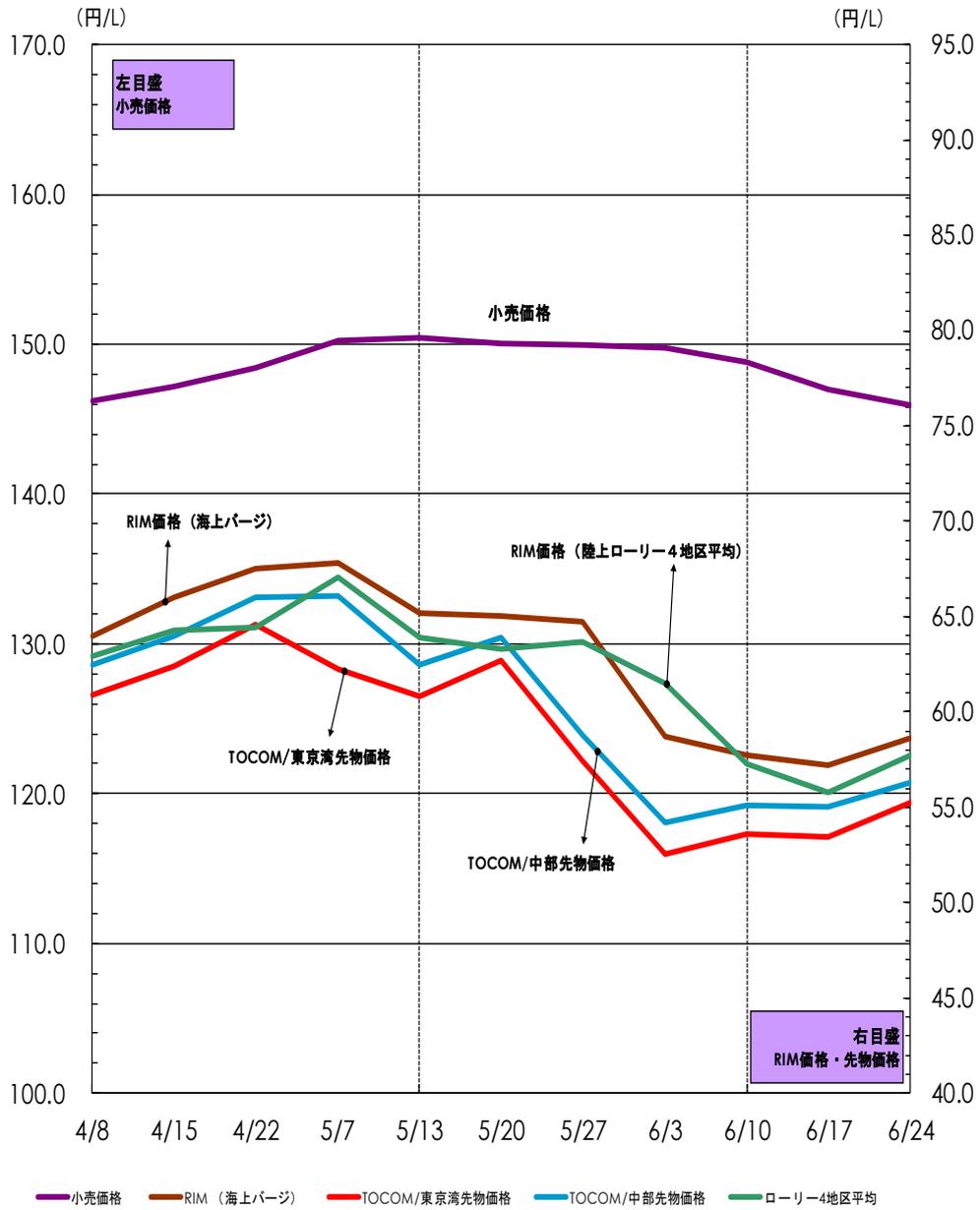
※ 現金一般価格の全国平均値 (消費税込み)

07年4月以降 2,000店舗を対象。

直近高値とは2003年10月以降の最高値。

ガソリン価格推移

(2019/4/8 ~ 2019/6/24)



(注)①「小売価格」は消費税込みの価格 RIM価格・TOCOM先物価格は税抜き価格
 ②RIM価格(陸上ローリー)は4地区平均価格

■ お知らせ

本レポートは当センターのホームページ (<https://oil-info.ieej.or.jp>) にも掲載しています。
次回(2019第13号)の公表は、7/5(金)14:00です。

「セルフSS出店状況」(平成30年9月末現在)は、12月19日(水)14:00に公表しました。当センターのホームページをご覧ください。

本レポートのご利用について

本レポートについて、テキスト、グラフィックス及びその他の情報(以下、併せて「ドキュメント」)に関わるすべての知的所有権は、一般財団法人日本エネルギー経済研究所石油情報センター(以下、当センター)又は当センターヘドキュメントを提供している第三者へ独占的に帰属します。

当センターの事前の書面による承諾を得ることなく、ドキュメントを転用、複製、改変等の一切を固く禁じています。

また、ドキュメント内容に関しては万全を期していますが、その内容の正確性および安全性を保証するものではありません。

「ウィークリー オイル マーケット レビュー」とは

平成16年5月に経済産業省資源エネルギー庁資源・燃料部石油流通課 主催の「石油製品市場動向研究会」が取りまとめた中間報告で、「わが国石油産業における市場機能、価格発見機能が更に強固なものとなることが望まれるとともに、中期的な課題として、石油産業において確立していく市場機能、価格発見機能に基づく合理的な価格認識及びそれを踏まえた自己責任の下での経営判断の必要性について、石油産業関係者の認識が更に深まることにより、わが国の基幹産業である石油産業全体としての合理性、活力が一層高まることを期待したい。」と提案されています。

当センターでは、これを受けて石油連盟、全国石油商業組合連合会をはじめ関係機関等の協力を得て、石油関係者、企業の経営者層(特に給油所経営に携わる方々)から一般消費者の方々に対し、原油・石油製品需給や価格動向を的確に理解するツールの一つとして、「ウィークリーオイルマーケットレビュー」を平成17年5月より定期的に発信しています。

本レポート掲載データの出所について

①【原油・石油製品需給】〈石連週報〉

石油連盟(石連)「原油・石油製品供給統計」週報データを千KL単位に換算して採用。

「出荷」は当センターの推計。

②【原油・先物価格】〈WTI原油、中東産原油〉

WTI原油は、ニューヨーク商業取引所(New York Mercantile Exchange : NYMEX) WTI原油先物の期近物・終値を採用。

中東産原油は、東京商品取引所(The Tokyo Commodity Exchange : TOCOM) 中東産原油の期近物・終値を採用。 ※「二番限(翌月限)」

中東産原油は、ドバイ原油及びオマーン原油の平均価格を指標としている。為替換算レートとして、三菱東京UFJ銀行発表TTM (Telegraphic Transfer Middle rate : 中値) を採用。

原油CIF単価は、財務省貿易統計「原油・粗油平均CIF単価」(旬間値)を基に、石油連盟が試算したドル表示の参考値を採用。

③【国内製品・元売仕切価格】

元売仕切価格は、元売会社(一次卸)と系列特約店など(二次卸)との間で売買される卸価格。

元売会社は、平成22年4月以降、現行の新価格体系を見直し、原油や製品相場、他社仕切りなどの動向を総合的に判断し、具体的方針を決める方式に変更。さらに平成26年6月以降、原油コストをより重視する方式に変更している。

④【国内製品・業転価格】〈RIM業転〉

国内陸上ローリー価格は、リム情報開発株式会社(RIM)「LORRY RACK・レポート」の千葉、川崎、中京、阪神の4地区の平均値を採用(いわゆる4RIM価格とは異なる)。

⑤【国内製品・先物価格】〈TOCOM〉

TOCOM 東京湾及び中部石油製品期近物・終値を採用。

TOCOM東京湾は京浜地区海上バージ渡し価格(平均値)、TOCOM中部は中部地区陸上ローリー渡し価格(平均値)。

⑥【国内製品・小売価格】〈週動向調査〉

約2,000 SSを対象に週次ベースのSS店頭における店頭現金価格の全国平均値を採用(資工庁公表)。原則として、毎週(月)時点の価格を調査し(水)14:00に公表(資源エネルギー庁HPに掲載)。